

# 株式指数のリスクサマリー（毎日更新）

分析データ日付 **20180220**

※日次収益率	前々日から前日(分析日付)までの各指数の1日の騰落率(配当含む)です。
※トータルリスク	1年間で株式がどの程度変動するかを「NPM短期リスクモデル」で推定した数値です。 この数値が高いほど大きく変動するリスクが高いことを表します。 例えばトータルリスクが20%の場合、今後1年間で指数の騰落率が約2/3の割合で±20%以内に入ると推定されていることを表します。
※スペシフィックリスク	トータルリスクのうち、企業規模、PER・PBRの高低などの指標で説明できない変動を「NPM短期リスクモデル」で推定した数値です。 この数値が高いほど一般的なファクターで説明出来ないリスクを持った指数であることを表します。
※アクティブリスク	東証1部の指数と比較して、どの程度異なる動きをするかを「NPM短期リスクモデル」で推定した数値です。 この数値が大きいと、東証1部(TOPIX)からかけ離れた動きをする可能性が高いことを表しています。 例えばアクティブリスクが5%の場合、今後1年間で東証1部に対して約1/3の割合で5%以上異なる動きをするとう推定されていることを表します。
※ベータ値	東証1部の指数に対する感応度を「NPM短期リスクモデル」で推定した数値です。 例えば、ベータ値が1.1の場合、東証1部の指数が「1」動いた時に、その指数が「1.1倍」動く傾向があることを表します。
※各種指標の偏り度合	東証1部の指数と比較して、各種指標の値がどの程度ずれているかを「NPM短期リスクモデル」で計算した数値。 この数値がプラスであればあるほど、その指数の指標値が東証1部よりも大きいことを表し、逆にマイナスの場合は小さいことを表します。 各指標値の説明に関しては、下段をご参照下さい。

## 収益率・推定リスク・ベータ値

指数名	日次収益率 [%]	NPMリスクモデルの推定リスク			ベータ値 (対東証1部)
		トータル リスク [%/year]	スペシフィック リスク [%/year]	アクティブ リスク (対東証1 [%/year]	
1 東証1部					
2 東証2部					
3 東証Core30					
4 東証Large70					
5 東証100					
6 東証Mid400					
7 東証500					
8 東証Small					
9 日経225					
10 日経300					
11 JASDAQ					

※本資料は、資産運用業務支援サービスにおける分析ツールを用いて作成したサンプルデータです。データの信頼性には万全を期しておりますが、正確性を保証するものではありません。弊社は本情報の利用の結果、いかなる不利益・損失が生じた場合でも責任を負いかねますので、ご自身の判断と責任でご利用頂きますようお願い申し上げます。また、本情報の第三者への再配布・転送・複製は、固くお断り申し上げます。

## 各種指標の偏り度合（東証1部指数を平均値(=0)とした場合）

指数名	規模 [σ]	市場感応度 [σ]	B/P [σ]	E/P [σ]	財務健全性 比率(一般) [σ]	財務健全性 比率(金融) [σ]	米国株 感応度 [σ]	売買回転率 [σ]	変動性 [σ]	長期リターン [σ]
1 東証1部										
2 東証2部										
3 東証Core30										
4 東証Large70										
5 東証100										
6 東証Mid400										
7 東証500										
8 東証Small										
9 日経225										
10 日経300										
11 JASDAQ										

規模	企業の規模を表す指標で、時価総額、総資産、売上高から構成されています。 この数値が大きい(小さい)指数は、相対的に規模の大きい(小さい)企業で構成されている指数であることを表します。
市場感応度	マーケットの動きに対する感応度を表す指標で、1年~4年程度のヒストリカルβ値(対配当込みTOPIX)から構成されています。 この数値が大きい(小さい)指数は、TOPIX以上に値動きの大きい(小さい)指数であることを表します。
B/P	企業の純資産に対する株価の割安度を表す指標で、連結PBRを逆数を使用しています。 この数値が大きい(小さい)指数は、東証1部全体と比較して(純資産から見)割安(割高)な企業で構成されている指数であることを表します。
E/P	企業の利益に対する株価の割安度を表す指標で、予想利益を用いた益利回り(PERの逆数)、CF利回り、EBITDA利回りなどから構成されています。 この数値が大きい(小さい)指数は、東証1部全体と比較して(予想利益から見)割安(割高)な企業で構成されている指数であることを表します。
財務健全性比率(一般)	一般事業会社の財務健全性を表す指標で、自己資本比率、総資産剰余金比率、インタレスト・カバレッジ・レシオから構成されています。 この数値が大きい(小さい)指数は、相対的に財務健全性の高い(低い)企業で構成されている指数であることを表します。
財務健全性比率(金融)	金融業(銀行、証券、保険、その他金融)の財務健全性を表す指標で、自己資本比率、総資産剰余金比率に加え、銀行ではBIS自己資本比率、保険ではソルベンシー・マージン比率などを用いて計算しています。
米国株感応度	米国株式に対する感応度を表す指標で、SP500指数やNASDAQ指数の前日の値動きに対する株価の反応度合いを2年程度の計算期間で計算しています。 この数値が大きい(小さい)指数は、米国株の値動きに敏感(鈍感)に反応する企業で構成されている指数であることを表します。
売買回転率	株式の流動性を表す指標として、短い期間で計算された出来高回転率(発行済株式数に対する出来高の割合)から計算されています。 この数値が大きい指数は、東証1部の平均的企業と比較して活発に売買されている企業で構成されている指数であることを表します。
変動性	株式の変動の大きさを表す指標で、前述のような指標だけでは説明できない株価の上げ下げの「ばらつき」を半年~3年程度の期間で計算しています。 この数値が大きい(小さい)指数は、過去TOPIX以上に値動きが変動した(変動しなかった)指数であることを表します。
長期リターン	株価が長期でどの程度値上がり(値下がり)したかを表す指標で、過去5年間の騰落率から前述のような指標との相関関係を取り除いた数値を用いています。 この数値が大きい(小さい)指数は、東証1部と比較して相対的に長期で値上がり(値下がり)した企業で構成されている指数であることを表します。